

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
関係法規・制度	必修	1単位	2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
三宅英明	講義	前期		30コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容師の業務に関する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解させ、あわせて、公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理について、自覚を促す。 ・美容の業務に関する規定内容を性格に理解させるとともに、衛生法規が、美容業を行う場合の指針として有する意義を把握させる。 			
授業の概要	第1章 法制度の概要			
	1	第1節 社会生活における法の役割		
	2	第2節 法の実際		
	3	第3節 衛生法規の概要		
	第2章 衛生行政の概要			
	4	第1節 法と行政		
	5	第2節 衛生行政の意義と歴史		
	6	第3節 衛生行政の種類と衛生行政機関		
	第3章 美容師法			
	7	第1節 美容師法の目的と構成		
	8	第2節 用語の定義		
	9	第3節 美容師		
	10	第4節 美容所		
	11	第5節 立入検査と環境衛生監視員		
	12	第6節 違反者等に対する行政処分		
13	第7節 罰則			
14	第8節 参考事項			
15	第4章 関連法規			
教科書	「関係法規・制度」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績 評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
衛生管理	必修	3単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
岩本美江子・前田 健	講義	前期・後期		90コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生の意義と本質とを明らかにすることによって、美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解させ、特に、環境衛生の意義と目的について、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解させる。 ・美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視して、美容における衛生措置の重要性について理解させる。美容器具などの消毒法は、美容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であるので、その意義と原理について十分に理解させ、適正な実施方法を身に付けさせる。 			
授業の概要	第1編 公衆衛生			
	第1章 公衆衛生の概要			
	1	1、公衆衛生の意義と課題		
	2	2、公衆衛生発展の歴史		
	3	3、公衆衛生の具体的な課題と領域		
	4	4、理容師・美容師と公衆衛生		
	5	5、保健所と理容業・美容業		
	第2章 予防医学と保健			
	6	1、予防医学		
	7	2、疫学の重要性と予防医学の推進		
	8	3、保健		
	9	4、医療介護の制度		
	第2編 環境衛生			
	第1章 環境衛生			
	10	1、環境衛生の概要		
	11	2、空気・水・日光		
	12	3、衣食住と健康		
	13	4、上・下水道と廃棄物		
	14	5、衛生害虫とネズミ		
	15	6、公害と環境保全		
	第2章 理容所・美容所の環境衛生			
	16	1、理容所・美容所の衛生管理		
	17	2、衛生的取り扱い		
	第3編 感染症			
	第1章 感染症の知識			
	18	1、人と感染症		
	19	2、病原微生物		
	20	3、感染症の予防		
	第2章 感染症の概要			
	21	1、理容・美容と感染症		
第4編 衛生管理技術				
第1章 消毒法総論				
22	1、消毒とは			
23	2、消毒の意義			
24	3、理容・美容の業務と消毒との関係			
25	4、消毒法と適用上の注意			
第2章 消毒法各論				
26	1、理学的消毒法(殺菌法)			
27	2、化学的消毒法(殺菌法)			
	3、すぐれた消毒法とその実施上の注意			
第3章 消毒法実習				
28	1、各種消毒薬			
29	2、理容所・美容所の消毒の実際			
30	3、理容所・美容所の清潔法の実際			
教科書	「衛生管理」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
美容保健	必修	4単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
鶴岡昌子	講義	前期・後期		120コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識の習得をさせる。 ・美容の業務を安全かつ効果的に行うために、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させる。 			
授業の概要	第1編 人体の構造及び機能			
	1	第1章 「理容・美容保健」と理容師・美容師		
	2	第2章 細胞と体液		
	3	第3章 骨格器系		
	4	第4章 筋系		
	5	第5章 神経系		
	6	第6章 感覚器系		
	7	第7章 循環器系		
	8	第8章 呼吸器系		
	9	第9章 消化器系		
	10	第10章 泌尿器系		
	11	第11章 内分泌器系		
	12	第12章 環境と生体		
	第2編 皮膚科学			
	13	第1章 皮膚の構造		
	14	第2章 皮膚付属器官の構造		
	15	第3章 皮膚の循環系と神経系		
	16	第4章 皮膚と付属器官の生理機能		
17	第5章 皮膚と付属器官の保健			
18	第6章 皮膚と付属器官の疾患			
教科書	「美容保健」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績 評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
美容物理・化学	必修	3単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態		期間	総コマ数
梅村英理世	講義		前期・後期	90コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> 美容の業務を安全かつ効果的に行うために、正確な科学的知識と合理的思考に裏付けられた美容器具や香粧品の適正な取り扱いが不可欠であることを理解させる。 物理・化学の基本原理についての理解とその応用能力とが、美容師にとって、極めて重要な意義を持つものであることを理解させ、美容器具や香粧品の合理的な取り扱いに習熟させる。あわせて、美容器具や香粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ばせる。 香粧品は、美容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものであることから、その化学的な性質を理解させるとともに、正しく使用するために正確な知識と適正な技術とを身につけることが重要であることを認識させる。 			
授業の概要	第1編 物理		第8章 燃焼と消化器	
	第1章 力		27	1、燃焼の条件と消火
	1	1、力とそのはたらき	28	2、消火器の種類と使い方
	2	2、刃物と力	29	3、石油燃料
	第2章 熱		第3編 香粧品化学	
	3	1、温度と熱	第1章 香粧品概論	
	4	2、熱の移動	30	1、香粧品の社会的意義と品質特性
	5	3、物質の状態の変化	31	2香粧品の規制
	第3章 光		第2章 香粧品用原料	
	6	1、光の進み方	32	1、水性原料
	7	2、光の色と明るさ	33	2、油性原料
	第4章 電気		34	3、界面活性剤
	8	1、電気の基本的性質	35	4、高分子化合物
	9	2、電流の化学作用と電池	36	5、色材
	10	3、電気のエネルギー	37	6、香料
	11	4、電流と磁界	38	7、その他の配合成分
	12	5、理容・美容と電気機器	第3章 基礎香粧品	
	13	6、電気と電気機器の使用上の注意	39	1、皮膚清浄用香粧品
	第2編 化学		40	2、化粧水
	第1章 物質の構造		41	3、クリーム・乳液
	14	1、物質の構成	42	4、その他の基礎香粧品
	15	2、化学結合	第4章 メイクアップ用香粧品	
	16	3、物質の量と変化	43	1、メイクアップ用香粧品の種類と剤形
	第2章 溶液とコロイド		44	2、ベースメイクアップ香粧品
	17	1、溶液とその性質	45	3、ポイントメイクアップ香粧品
	18	2、コロイド	第5章 頭皮・毛髪用香粧品	
第3章 酸と塩基と塩		46	1、頭皮や毛髪の性状	
19	1、酸と塩基の性質	47	2、シャンプー剤	
20	2、中和反応と塩の生成	48	3、スタイリング剤	
第4章 酸化・還元反応		49	4、パーマネントウェーブ用剤	
21	1、酸化と還元	50	5、染毛剤	
第5章 有機化合物		51	6、育毛剤	
22	1、低分子化合物	第6章 その他の香粧品		
23	2、高分子化合物	52	1、芳香製品	
第6章 水		53	2、特殊香粧品	
24	1、硬水と軟水の特徴	第7章 香粧品の取り扱い		
第7章 金属		54	1、香粧品の安定性と取り扱い上の注意	
25	1、金属の性質と合金	55	2、香粧品の安全性と取り扱い	
26	2、鉄と刃物			
教科書	「美容物理、化学・香粧品化学」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績 評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
美容文化論	必修	3単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
西脇末美・寺下秩代	講義	前期・後期		90コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容業の使命の1つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識させ、この使命の達成のために必要な美的感覚を身につけ、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養う。 ・美容の業務を全うするためには、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚させる。 			
授業の概要	第1章 総論			
	1	第1節 「理容」「美容」の語義		
	2	第2節 顔を考える		
	3	第3節 化粧の意味		
	4	第4節 文化的記号としての髪の毛		
	第2章 日本の美容業の歴史			
	5	第1節 美容業の発生		
	6	第2節 江戸時代の美容業		
	7	第3節 近代の美容業		
	8	第4節 現代の美容業		
	第3章 ファッション文化史・日本編			
	9	第1節 縄文・弥生・古墳時代		
	10	第2節 古代（飛鳥・奈良・平安時代前期）		
	11	第3節 中世（平安時代中期以降・鎌倉・室町時代）		
	12	第4節 近世前期（戦国・安土桃山・江戸時代前期）		
	13	第5節 近世後期（江戸時代中・後期）		
	14	第6節 近代（明治・大正・昭和20年まで）		
	15	第7節 現代Ⅰ（1945年～50年代まで）		
	16	第8節 現代Ⅱ（1960年代～70年代）		
	17	第9節 現代Ⅲ（1980年代以降）		
	第4章 ファッション文化史・西洋編			
	18	第1節 古代エジプト		
	19	第2節 古代ギリシャ・ローマ		
	20	第3節 古代ゲルマン		
	21	第4節 中世ヨーロッパ		
	22	第5節 近世Ⅰ（16世紀）		
	23	第6節 近世Ⅱ（17世紀）		
	24	第7節 近世Ⅲ（18世紀）		
	25	第8節 近代Ⅰ（18世紀末～19世紀初め）		
	26	第9節 近代Ⅱ（19世紀）		
	27	第10節 現代Ⅰ（1910年～1920年）		
	28	第11節 現代Ⅱ（1930年代）		
	29	第12節 現代Ⅲ（1940年～1950年代）		
	30	第13節 現代Ⅳ（1960年代）		
	31	第14節 現代Ⅴ（1970年代）		
	32	第15節 現代Ⅵ（1980年代）		
	33	第16節 現代Ⅶ（1990年代）		
	第5章 礼装の種類			
34	第1節 和装の礼装			
35	第2節 洋装の礼装			
第6章 ファッションの造形原理				
36	第1節 ファッションとは			
37	第2節 トータルファッションの造形原理			
38	第3節 色彩のコーディネート			
教科書	「美容文化論」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
美容技術理論	必修	4単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
大井真理子・小林正恵・松尾郁織	講義	前期・後期		120コマ
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる。 ・美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる。 ・優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを理解させる。 			
授 業 の 概 要	美容技術理論 1			
	1	序章 美容技術理論を学ぶにあたって		
	2	1章 美容用具		
	3	2章 シャンプーイング		
	4	3章 ヘアカットイング		
	5	4章 パーマネントウェービング		
	6	5章 ヘアセッティング		
	7	6章 ヘアカラーリング		
	美容技術理論 2			
	8	7章 エステティック		
	9	8章 ネイル技術		
	10	9章 メイクアップ		
	11	10章 日本髪		
12	11章 着付けの理論と技術			
教科書	「美容技術理論 1、美容技術理論 2」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績 評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
美容運営管理	必修	2単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
林 智章	講義	前期・後期		60コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経営管理の基本的事項を学習することによって、美容業における科学的な経営管理手法の重要性を認識させ、自己研修・学習・従業員指導など美容所の経営に役立たせる。 ・美容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚させるとともに、消費者対応の基本を学ばせ、実践する能力を身に付けさせる。 			
授業の概要	第1編 接客			
	1	第1章 仕事をするということ		
	2	第2章 接客の役割と基本		
	3	第3章 接客の計画・実践		
	4	第4章 接客の場で起こる問題		
	第2編 経営戦略・マーケティング			
	5	第1章 経営戦略		
	6	第2章 マーケティング		
	第3編 経営管理			
	7	第1章 経営者の視点		
	8	第2章 資金の管理		
	第4編 労務管理			
	9	第1章 労務管理とは何か		
	10	第2章 働くあなたの姿		
第5編 健康管理				
11	第1章 健康管理の意義			
12	第2章 美容師に多い健康上の問題			
教科書	「運営管理」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績 評価法	試験(レポート)、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
美容実習	必修	4単位	1、2年	美容学科
担当教官	授業形態		期間	総コマ数
大井真理子・小林正恵・松尾郁織・寺下秩代 西脇末美・糸賀義将・千村希人	演習		前期・後期	120コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これからの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させる。 ・美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせる。 ・個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせる。 			
授業の概要	美容実習 I		着付けの理論と技術	
	1	1章 シャンプーイング	10	着付けの基礎
	2	2章 ヘアカットイング	11	花嫁化粧着付け
	3	3章 パーマネントウェービング	ヘアアレンジ	
	4	4章 ヘアセッティング	12	1、アップスタイルの基礎知識
	5	5章 ヘアカラーリング	13	2、デザイン実習
	美容実習 II		14	3、テクニック実習
	6	6章 エステティック	ベーシックカット	
	7	7章 ネイル技術	15	1、カットの基礎知識
	8	8章 メイクアップ	ワンレングスカット	
	9	9章 着付け技術	グラデーションボブカット	
			レイヤーカット	
教科書	「美容実習 1、美容実習 2」日本理容美容教育センター 配布プリント、TONI&GUYテキスト			
成績 評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
ヘアデザインⅡ・カラー(選択)	選択	4単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
藤田善洋・林 義明・外部講師	演習	前期・後期		120コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・必修課目において習得した基礎的な専門知識や技術を基に、サロンワークに準じた高度なカット・カラーの技術を身に付けさせ、美容デザインの最新の国際的動向について学ばせる。 ・常に新しい技術の吸収に心がけ、自ら新しい技術の開発に努める姿勢を習慣付けさせ、専門技術者としての心構えを身に付けさせる。 			
授業の概要	ヘアデザインⅡ			
	1	・ロングウルフカット パーマ、ブリーチ、カラー		
	2	・相モデル 人頭(カット・パーマ・カラー)		
	3	・トライアングルテクニック(ドライカット) 部分カラー、ブリーチ、仕上げ 個人発表		
	4	・ボブスタイルにフォワードグラデーション カット、ブロー仕上げ、ドライカット		
	5	・ショートカット カット、ブロー仕上げ、ドライカット		
	6	・ウェーブスタイル(モード系・キュート系) カット、ブロー・アイロン仕上げ		
	7	・ショートウェーブ カット、仕上げ、ドライカット		
	8	・刈り上げ、ボックスボブ、ショート刈り上げスタイル		
	9	・ウィッグをしようした自主制作、発表		
	10	・相モデルによるパーマ・カラー		
	フォト技術			
	11	・写真とは……		
	12	・撮影・写真加工デモンストレーション		
	13	・撮影の実際Ⅰ		
	14	・撮影の実際Ⅱ、まとめ		
	ヘアカラー(1年生のベーシックカリキュラムを基礎としたステップアップ)			
15	・フォイルワーク基礎Ⅰ			
16	・フォイルワーク基礎Ⅱ			
17	・デザインカラー			
教科書	配布プリント			
成績評価法	作品、平常点、出席率で総合的に評価する。			
備考				

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
メイクアップ(選択)	選択	4単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
長谷川潤・西脇未美・林義明 本多雅幸・宗 美恵	演習	前期・後期		120コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・必修課目において習得した基礎的な専門知識や技術を基に、サロンワークに準じた高度なメイク・専門的な技術を身に付けさせ、美容デザインの最新の国際的動向について学ばせる。 ・常に新しい技術の吸収に心がけ、自ら新しい技術の開発に努める姿勢を習慣付けさせ、専門技術者としての心構えを身に付けさせる。 			
授業の概要	メイク(2級検定対策)		ヘアアレンジ	
	1	・ベースメイク	19	・ベーシックスタイル
	2	・ポイントメイク2	20	・デザイン実習
	3	・印象別メイクソフトな印象	21	・テクニック実習
	4	・印象別メイクシャープな印象	22	・サロンスタイルアドバンス、新日本髪
	5	・印象別メイク 1	23	・自由創作実習
	6	・印象別メイク 2	フラワーアレンジ	
	7	・モデルにあった印象メイク 1	24	・花材(植物素材の総称),基礎用語
	8	・モデルにあった印象メイク 2	ウェディングブーケの歴史・名称とコサージュの基本形	
	9	・2級対策模擬 1	コサージュの実際	
	10	・2級対策模擬 2	25	・ウェディングフラワーの名称
	留袖着付け		ウェディングブーケの種類・形・デザイン	
	11	・着物の技術理論、着付けの実際	キャスケードブーケの実際	
	12	・着付けの手順を知る	26	・テーブルアレンジ
	13	・着付けに必要な技術を知る	ブライダルコーディネイト	
	14	・留袖着付けの総仕上げ	27	・ブライダル業界について
	フォト技術		ブライダルヘアメイクの仕事	
	15	・写真とは……	セット・メイク展示	
	16	・撮影・写真加工デモンストレーション	セット・メイク実演デモンストレーション	
17	・撮影の実際Ⅰ	28	・ブライダルメイク実際	
18	・撮影の実際Ⅱ、まとめ	セット・メイク・ヘアー・衣装合わせ		
教科書	「美容技術理論 1、美容技術理論 2」日本理容美容教育センター 「美容実習 1、美容実習 2」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績評価法	作品、平常点、出席率で総合的に評価する。			
備考				

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
ネイルⅡ(選択)	選択	3単位	2年	美容学科
担当教官	授業形態	期間		総コマ数
伊藤 由佳	演習	前期・後期		90コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンワークで通用するネイルケア、リペア、チップ&ラップ、アートに関する技能および知識を習得する ・エアブラシの性質、特徴の理解 ・ジェルネイルに性質や特徴を理解し技術を習得する 			
授業の概要	1	プロフェッショナリズム		
	2	ネイルカウンセリング		
	3	ネイルサロンにおける衛生管理		
	4	リペア(グルーオンテクニック、ネイルラップテクニック)		
	5	イクステンション(チップ&ラップ)		
	6	エアブラシ(道具の扱い方、使用教材について)		
	7	エアブラシ(作品制作)		
	8	ジェルネイル(ソフトジェルの特徴と性質)		
	9	ジェルネイル(ハードジェルの特徴と性質)		
	10	ジェルネイル(カラーリング、グラデーション、スカルプチュア、チップ&オーバーレイ)		
	11	アート(イラスト、3D、エンボス、ミックスメディアアート)		
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書	「JNAテクニカルシステムベーシック」 NPO法人日本ネイリスト協会 プリント配布			
成績評価法	実践しようとする態度・意欲を求める。 評価は出欠席状況および課題消化、期末テスト(実技・筆記)の結果から総合的に評価する。(平常点30%、期末テスト70%、合計100点)			
備考	JNEネイリスト技能検定試験2級 クリストリオ社ジェルネイルディプロマ試験			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
トータルビューティ(ヘアデザインⅠ)	選択必修	1単位	2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
藤田善洋	演習	前期		30コマ
目標	・カットの基礎的な技術を習得した上で、新しいスタイルも交え、サロンで通用する技術をカットから仕上げまでを学ぶ。			
授業の概要	1	基礎知識		
	2	グラデーションボブカット		
		仕上げ		
		ブロー		
	3	ロングフォワードレイヤー、		
		ドライカット		
		アイロンテクニック		
		仕上げ		
	4	ショートレイヤー		
		仕上げ		
	5	ディスコネクトカット		
		仕上げ		
教科書	配布プリント			
成績評価法	作品、平常点、出席率で総合的に評価する。			
備考				

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
トータルビューティ(ネイル I 基礎)	選択	1単位	1年	美容学科
担当教官	授業形態	期間	総コマ数	
伊藤 由佳	実習	後期	30コマ	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイリストベーシックのマスター ・ネイルケアに関する専門的知識およびテクニックを習得する。 ・JNEネイリスト技能検定試験3級取得を目指す 			
授業の概要	1	衛生と消毒		
	2	爪の構造(皮膚科学)		
	3	爪の病気とトラブル(爪の生理解剖学)		
	4	ネイルケア		
	5	カラーリング		
	6	アート		
	7	検定対策		
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
教科書	「JNAテクニカルシステムベーシック」 NPO法人日本ネイリスト協会			
成績評価法	<p>実践しようとする態度・意欲を求める。</p> <p>評価は出欠席状況および課題消化、期末テスト(実技・筆記)の結果から総合的に評価する。(平常点30%、期末テスト70%、合計100点)</p>			
備考				

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
メイク基礎	選択必修	2単位	1年	美容学科
担当教員	授業形態		期間	総コマ数
宗 美恵・小林正恵・松尾郁織	演習		前期・後期	60コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・メイクの基礎的な技術・理論を習得する。 ・道具の消毒・衛生管理の具体的使用方法を知り、実践出来るよう習得する。 ・容姿の衛生管理について知り、お客様に不快感を与えない方法を習得する。 ・日本メイクアップ連盟メイクアップ検定3級 			
授業の概要	メイクアップ理論・実習			
	1	メイクアップ概論		
	2	プロポーション		
	3	皮膚生理学		
	4	スキンケア		
	5	ベースメイク		
	6	アイメイク		
	7	アイブロウメイク		
	8	リップメイク		
	9	ブラッシュアップ		
	10	3級検定対策(トータルメイク)		
	11	トータルメイク(検定対策)		
	12	筆記試験問題		
	13	道具の消毒・衛生管理の具体的使用方法		
教科書	「美容理論 2、美容実習 2」日本理容美容教育センター			
成績評価法	検定試験で評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
総合実習 I	選択必修	2単位	1年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
千村希人・鶴岡昌子・松尾郁織	演習	前期		60コマ
目標	<p>・カットの基礎的な技術を習得する。</p> <p>TONI&GUYベーシックディプロマ</p>			
授業の概要	1	基礎知識		
		・基本用語		
		・カットに必要な道具		
		・シザーズの持ち方・開閉のさせ方		
		・実践でのシザーズとコームの使い方		
		・カットの基本姿勢		
		・TONI&GUYカッティング理論 4つのキーポイント		
		①セクションの取り方		
		②シェーピングの方向・角度		
		③左手(右手)の役割		
		④カットテクニック		
	2	ワンレングスカット		
	3	グラデーションボブカット		
	4	レイヤーカット		
教科書	TONI&GUYテキスト			
成績評価法	検定試験、平常点、出席率で総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
総合実習Ⅱ	選択必修	4単位	2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
大井真理子・寺下秩代・外部講師	演習	前期・後期		120コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した基礎的な専門知識や技術を基に、各自の想像力と個性をさらに発展させ、感性を養い身に付けさせる。 ・常に新しい技術の吸収を自主的に行い、自ら新しい技術の開発・工夫に努めるよう習慣付けさせ、技術者として不断の改善と努力精進が重要であることを認識させる。 ・国家試験実技・学科共、個々人に合わせ理解させる。 			
授業の概要	1	卒業制作(人体によるグループ作品制作発表)		
		・テーマに基づき、基礎的技術(セット・カット・パーマ・ブリーチ・カラー・メイク・ネイル)と応用技術を用い、トータル的に作品を仕上げ発表する。		
	2	ヘアカラーリング応用		
	3	国家試験対策		
	教科書	配布プリント 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説		
成績評価法	作品、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
コンピューター実習	選択必修(一般教養)	1単位	1年	美容学科
担当教官	授業形態	期間		総コマ数
中川達也	講義	前期・後期		30コマ
目標	<p>・文字入力の基礎や便利な入力方法などの基本的な学習、及び表や図形などのやや応用的な操作技術までを習得する。</p> <p>パソコン検定3級</p>			
授業の概要	Wordの基本操作			
	1	(1)文字の入力		
	2	(2)文書の編集		
	3	(3)文書の印刷		
	4	(4)文書の作成		
	5	(5)表が挿入された文書作成		
	6	(6)見栄えの良い文書作成		
	7	(7)書類送付案内の作成		
	8	(8)営業所案内図の作成		
	9	(9)総合演習問題、模擬試験		
	教科書	<p>繰り返して慣れる!完全マスターWord2011</p> <p>平成23年度コンピューターサービス技能評価試験受験対策練習問題集 ワープロ部門3級 配布プリント</p>		
成績評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
カラーコーディネイト	選択必修(一般教養)	1単位	1年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
佐竹 昭美	講義	前期・後期		30コマ
目標	<p>・カラーコーディネイトの基礎知識を学び、生活や美容技術に活かせるよう、色の性質を知り、本質を理解させる。</p> <p>社団法人 全国服飾教育連合会色彩検定3級</p>			
授業の概要	1	色のはたらき		
	2	光と色		
	3	色の表示		
	4	色彩心理		
	5	色彩調和		
	6	色彩効果		
	7	色彩と生活		
	8	ファッション		
	9	インテリア		
	10	色彩検定過去問題		
教科書	<p>A・F・T文部科学省認定色彩検定対策テキスト3級 [社団法人全国服飾教育者連合会(A・F・T)]</p> <p>色彩検定過去問題集 [社団法人 全国服飾教育者連合会(A・F・T)]</p> <p>文部科学省後援 色彩検定3級 本試験対策</p> <p>配布プリント</p>			
成績評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
デザイントレーニング	選択必修(一般教養)	1単位	1年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
木下 幹夫	講義	前期		30コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ラフ、デザイン画作成手法に必要な知識と技術を習得する。 ・いろいろな手法を用いて、イメージしたデザインを描けるようにする。 ・表現したいものを、相手に的確に伝えるための視点と方法を知る。 			
授業の概要	1	・用具の使い方		
		・グレースケール、カラーケール作成(作図・トレーニング)		
		・線の描き方(水平線・垂直線・らせん・うずまき・円・楕円・フリーハンド)		
	2	・人物トレース[全身(男女)4体作成、カーボン方法活用、トレース作業、彩色作業]		
	3	・デッサン(モノクロ写真模写)		
	4	・デッサン(グラフィット方法活用、顔のプロポーションを考えながら描く、マーク模写)		
	5	・自画像デッサン(マーク模写、配色)		
	6	・ヘアデザイン		
		イラストトレーニング		
		髪の毛の動きをとらえて描く[前(正面)、横(横顔)、後(後頭部)]		
		イラスト化、彩色作業		
	7	・オリジナルデザイン(テーマを決めて描く)		
	8	・オリジナルヘアデザイン		
教科書	配布プリント			
成績評価法	作品、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
実務実習	選択必修	2単位	2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
各依頼サロン管理美容師	演習	前期		60コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な美容技術に習熟し、状況に応じて応用できる基礎的能力を身に付けさせ、段階的な技術の種類と過程を知る。 ・サロンの基本的な仕事を理解し、接客業としての来客対応の大切さを知る。 ・相手の立場を理解し、尊重する姿勢を養い、その場に応じ率先して動けるよう実践を通して学ぶ。 			
授業の概要	サロンワーク概要			
	・サロン掃除・技術準備・片付けの手伝い			
	・技術の補助手伝い			
	・タオル・クロス洗濯			
	・お客への雑誌、飲料の手伝い			
	・サロンでの言葉使いの習得			
	・サロンワークの流れの習得			
	・美容基礎技術の習得(教えていただける範囲)			
	教科書			
成績評価法	出勤簿をもとに接客面、技術面、衛生面から総合的に評価する。			
備考				